

長岡京跡・淀水垂大下津町遺跡(2次調査)広報発表資料

(公財)京都市埋蔵文化財研究所

2023年6月22日(木)

所在地:京都市伏見区淀水垂町地先

調査期間:2022年10月13日～2023年5月31日

調査面積:3,130㎡(2区720㎡、3区1,760㎡、4区450㎡、5区200㎡)

調査対象面積:約15,000㎡

1. はじめに

本調査は、国土交通省淀川河川事務所が淀川水系河川整備計画に基づき、桂川の洪水時における治水安全度を向上させるための河積拡大(掘削工事)に伴うものです。調査地は、長岡京跡・淀水垂大下津町遺跡に該当します。調査は数年に分けて実施する計画となっており、今回の調査は、2021年度の1次調査に続く2次調査となります。

調査地は桂川右岸の河川敷に位置しています。この一帯は、平安京・京都の外港である「淀津」の推定地で、淀川水系を利用した交通の拠点として栄えました。調査地には、明治33年(1900)まで水垂村の集落が存在しました。水垂村は、江戸時代には淀城の城外町となり、桂川に沿って町家や輿舂神社が建ち並んでいました(図2)。1次調査では、弥生時代中期から明治時代まで2,000年以上にわたり、人々の営みがほぼ途絶えることなく続いていたことが明らかとなっています。

2. 調査成果

2次調査は、宮前橋の北側に4箇所(2～5区)の調査区を設定しました(図1)。3・4区の調査では、江戸時代から明治時代の当地における桂川の治水事業を知る上で重要な発見がありました。

3区

江戸時代前期と後期、明治時代の3時期の護岸を検出しました(図4)。

調査区北端で江戸時代前期の護岸3473を検出しました(図5-①、写真2)。検出規模は、長さ約3m、幅約4m、高さ約1.1m。江戸時代後期の護岸3200の下層で検出、調査区北端にわずかに残存していました。

調査区東端で江戸時代後期の護岸3200を検出しました(図5-②、写真1・3)。検出規模は、長さ約68m、幅約5.4m、高さ約1.9m。北半部は江戸時代後期の砂礫に覆われていました。また、これの構築により室町時代の溝3055・3100の北・東側延長部は失われていました。

調査区東端で明治時代の護岸3001を検出しました(図5-③、写真1)。検出規模は、長さ約70.6m、幅約4.3m、高さ約1.2m。北端と南半部には、川に向かって突出する水制3410・3430が構築されていました。北側の水制3410は、構築材として6基の竹蛇籠が「ハ」の字状に配置されていました(写真4)。その近くからは鉄製の錨が出土しました。

4区

江戸時代前期以前の大規模な溝と、江戸時代前期と後期の2時期の護岸を検出しました(図6、写真5)。

調査区中央で江戸時代前期以前の溝4030を検出しました(図8-①②、写真6)。検出規模は、長さ約35m、幅約7m、深さ約4m。東半は江戸時代前期の水制4035と護岸4031構築時に失われたと考えられます。泥土の堆積状況や断面形状の観察から東肩は現在の桂川河岸より東にあったとみられ、復元幅は15m以上になります。桂川の旧河岸はそれよりさらに東側に位置していたと考えられます。

調査区中央で江戸時代前期の水制4035を検出しました(図7、図8-③、写真7)。水制4035は土と石で非常に丁寧に構築された張り出しで、検出規模は、長さ約15m、幅約6m、高さ約3.5m。最下部では、船材を転用した胴木を検出しました。転用された船材は最長のもので約5.4mあります(写真8)。胴木は、水製の核をなす石積みの沈下を防ぐ役割を果たしていたと考えられます。

水制4035の南で護岸4031を検出しました(図7、写真9)。検出規模は、長さ約7.5m、幅約0.5m、高さ約0.6m。人頭大の石を2～3段積み上げ、前面に杭を打ちこみます。

調査区東端で江戸時代後期の護岸4001を検出しました(図8-④)。検出規模は、長さ約30m、幅約4m、高さ約1.5m。北端には水制4045が構築されていました。

3. まとめ

今回の調査では、江戸時代前期に桂川の河道が変更されたことに伴い護岸が構築されたこと、さらにその護岸の江戸時代から明治時代までの変遷と構造が明らかになりました。

3区で江戸時代の護岸3473・3200の構築により室町時代の溝3055・3100が失われていること、4区で江戸時代前期以前に掘削された溝4030の東岸が現在の桂川河岸より東にあったと考えられることから、江戸時代前期以前は、桂川の西岸は現在より東に位置したと推測されます。このことから、江戸時代前期に河道が変更され、それに伴って3区の護岸3473や4区の水制4035・護岸4031が構築され、現在の桂川に近い姿になったと考えられます。こうした工事は、安土桃山時代にはじまる宇治川付け替えなどの淀川水系の河川整備の一環として行われた可能性が考えられます。

入念な護岸の構築や造り替えについては、河道変更により川が集落に近くなることによって、洪水の影響が避けられなくなり、そのための治水対策を行った結果と考えられます。なお、江戸時代以降の遺構面では、それ以前には見られなかった洪水由来と考えられる砂の堆積を確認しています。

以上のように、江戸時代から明治時代にかけての当地における治水工事の具体的な様相が明らかになったことは大きな成果です。

※「水制」とは、川を流れる水の作用(浸食作用)などから河岸や堤防を守るために、水の流れる方向を変えたり、水の勢いを弱くすることを目的として河岸に設けられる構造物。杭・蛇籠・石などを用いる。「水剷」ともいう。

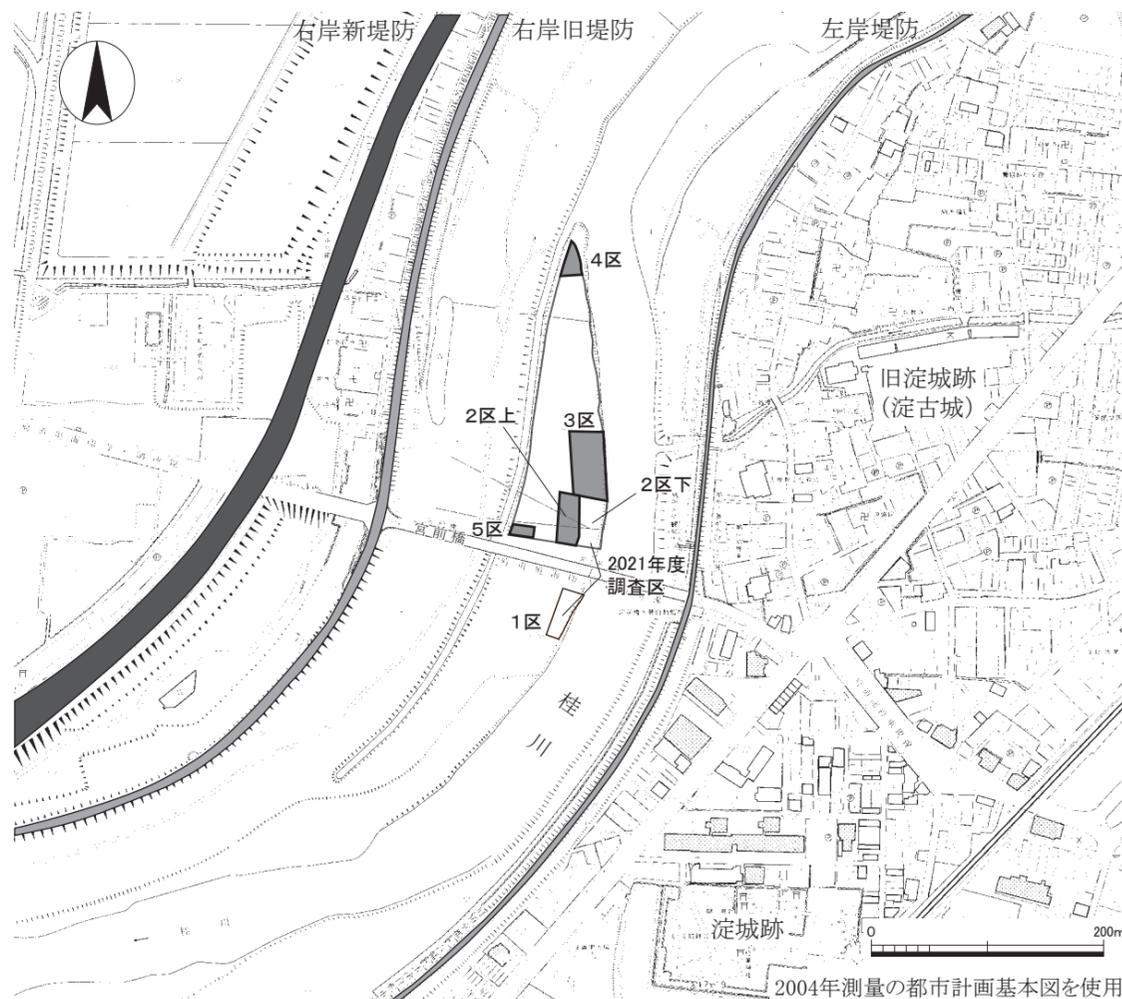


図1 調査地位置図(1:6,000)

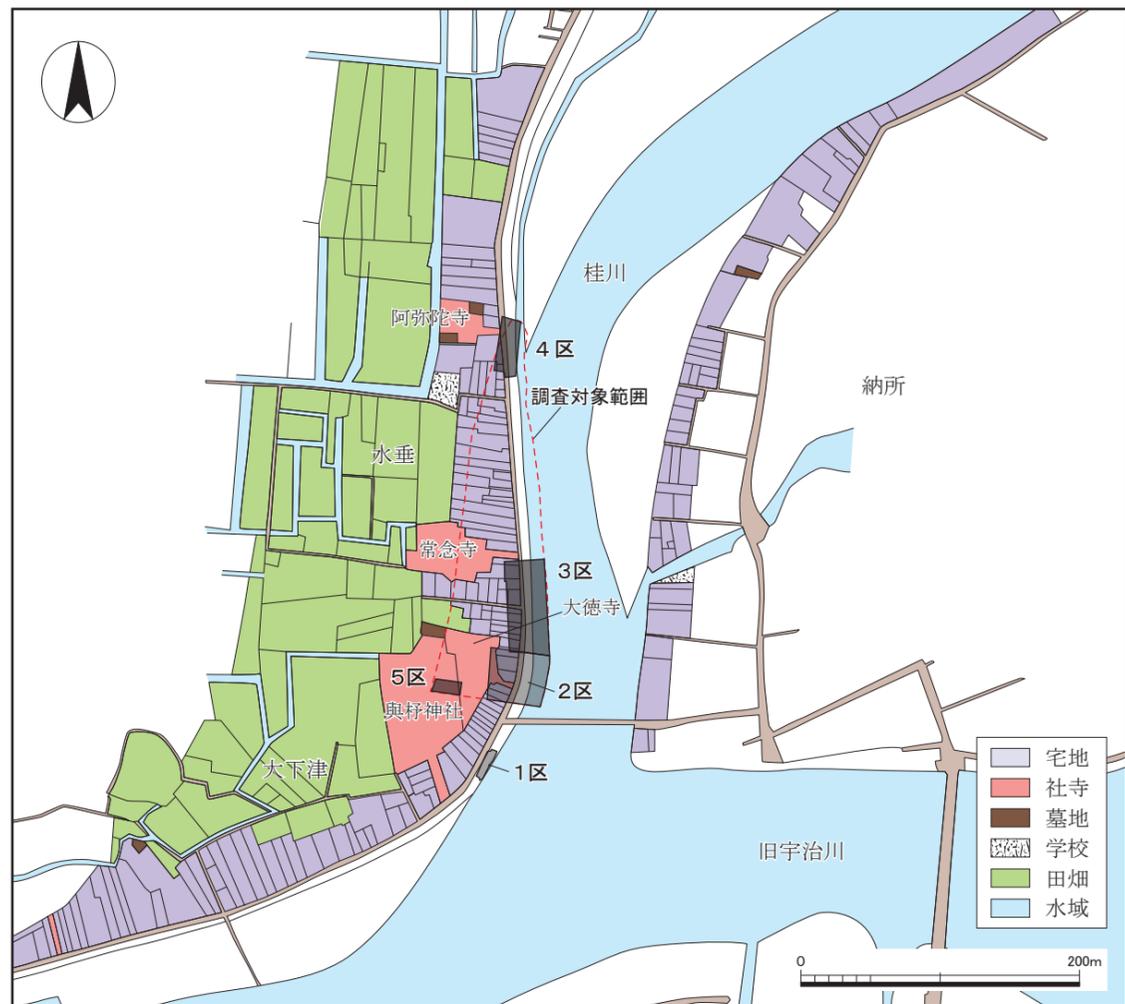


図2 明治時代地籍図と調査地位置 (1:5,000)

表1 淀周辺関連年表

永正元年	1504	薬師寺元一が主君細川政元に反し、淀の城に拠るが敗死。(『細川両家記』)
永禄2年	1559	細川氏綱が淀の城に入る。(『細川両家記』)
元亀3年	1572	細川藤孝が三好三人衆の一人岩成友通を立てこもる淀城を攻撃する。(『細川両家記』)
天正16年	1588	豊臣秀吉が淀に築城を命じる(淀古城)。翌天正17年に修築が完了する。(フロイス『日本史』)
文禄3年	1594	豊臣秀吉が伏見城の築城(文禄元年、1592)後、宇治川の改修を行う。
元和9年	1623	松平定綱が淀城の築城を開始する(寛永3年(1626)完成)。(『徳川実記』)
寛永14年	1637	永井尚政が木津川の河道付け替えを行い、城下町を拡張する。(『淀下津町記録』)
享保6年	1721	洪水により淀城二ノ丸などが浸水。藩主は城下の被災者に朝夕の食料を支給。
享保13年	1728	七月、洪水が起きる、淀城は矢狭間から浸水。八月、洪水により淀の町は六尺(約1.8m)まで浸水。
安永3年	1774	洪水により淀の町中が水没、大風で淀城の稽古所など大破。幕府は淀藩主に修理費用金五千両を貸与。
明治元年	1868	洪水後の災害復旧で京都府・淀藩合同で木津川の川違えが行われる(～明治3年)。
明治4年	1871	廃藩置県により淀藩廃止、淀県が置かれる。
明治7年	1874	淀川の河川改修のため、淀城の石垣が解体される。
明治29年	1896	引堤事業により桂川の拡幅が始まる。
明治33年	1900	引堤事業により水垂・大下津町の集落が移転する。
明治35年	1902	奥村神社が現在の位置へ遷座を完了する。

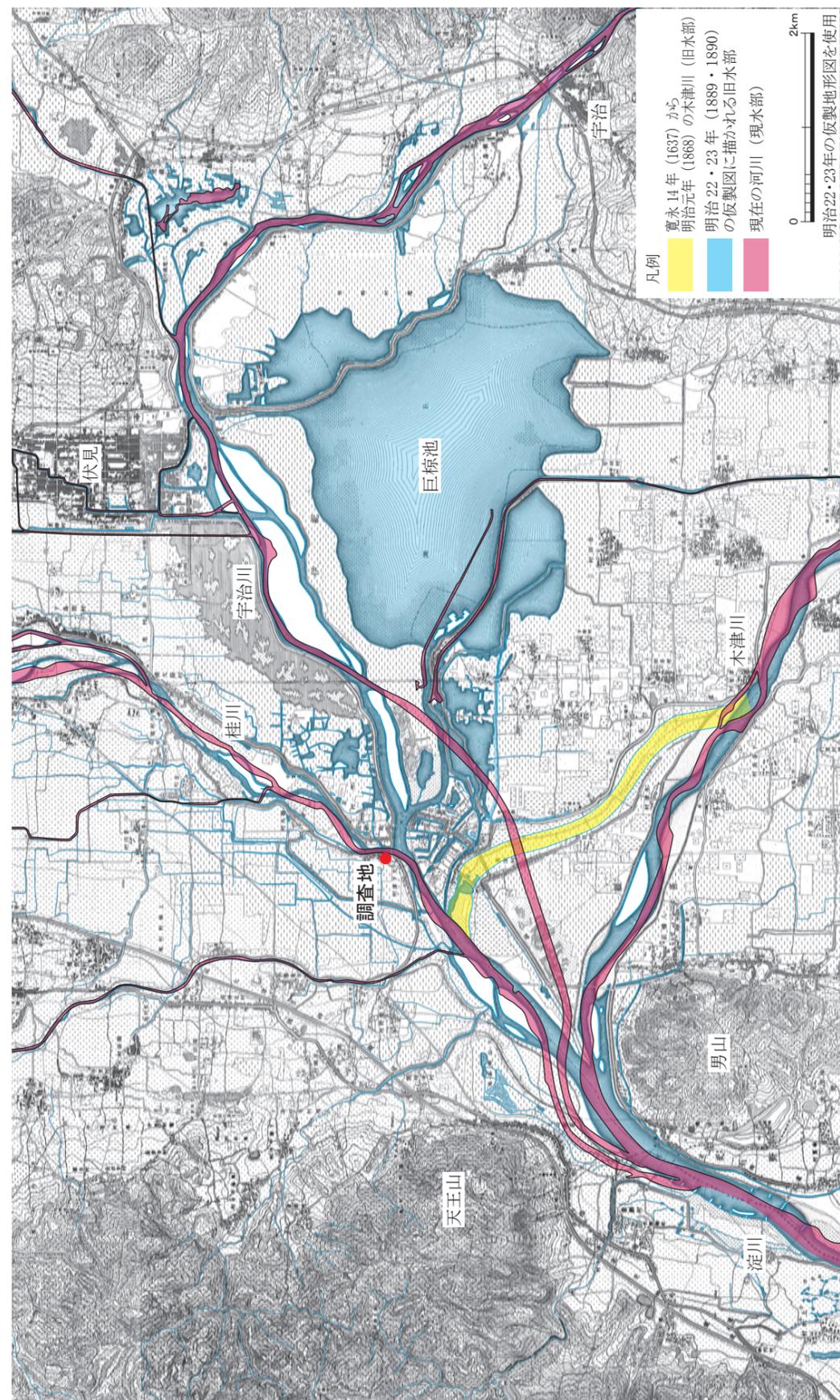


図3 江戸時代・明治時代・現代の河川

3区
(室町～明治時代)

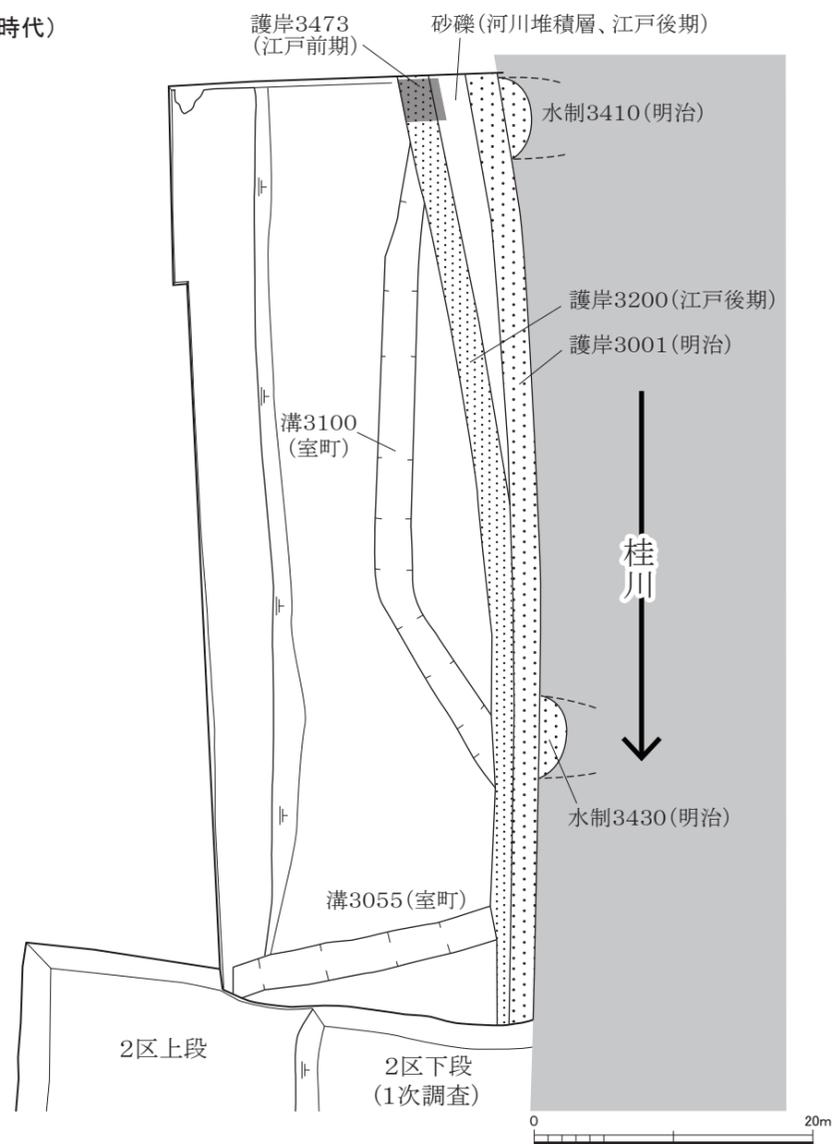


図4 3区遺構概略図(1:500)

①護岸3473



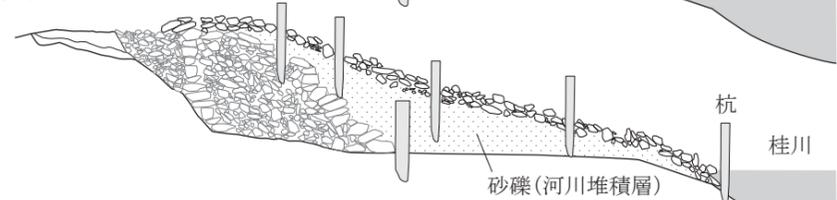
①護岸3473(江戸時代前期)
斜面に拳大の円礫を敷く。
その前面に杭を打ち込み、裾部には
人頭大の石を据える。

②護岸3200



②護岸3200(江戸時代後期)
表面は石を積みながら敷き並べ、
裾部付近に杭を打ち込む。背面
は礫を充填するが、強度を高める
ため内部に仕切りとなる石積みを持
つ。

③護岸3001



③護岸3001(明治時代)
護岸3200の前面に堆積した砂礫
(河川堆積層)の上面に杭を打ち
込み、石を敷く。

図5 護岸3001・3200・3473変遷模式図

4区
(安土桃山～江戸時代)

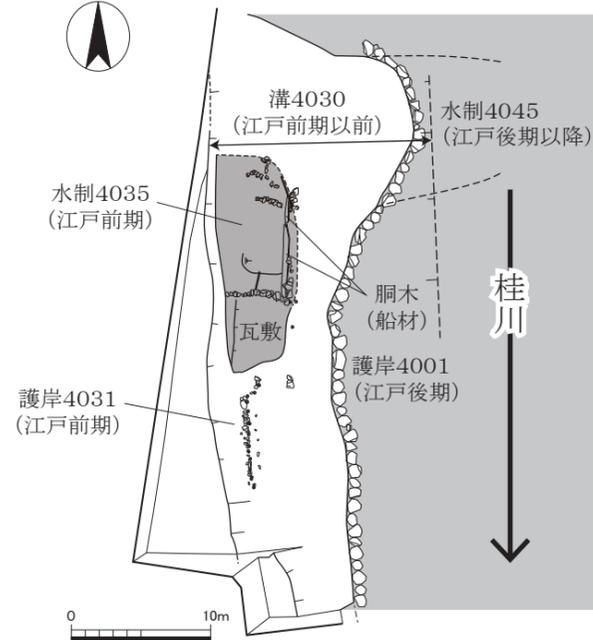


図6 4区遺構概略図(1:500)

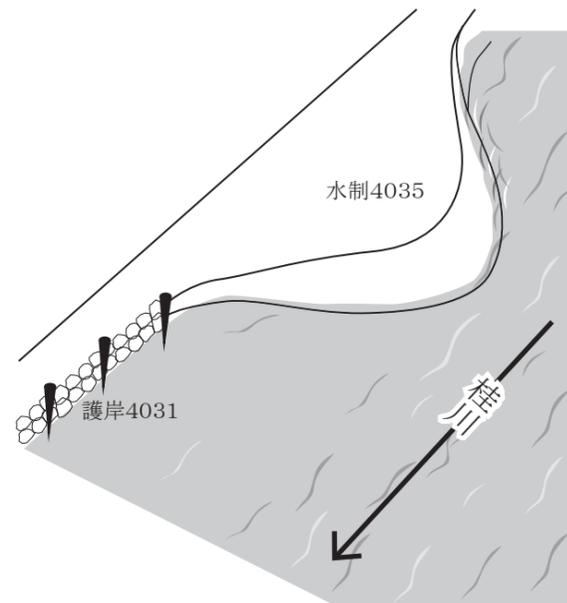
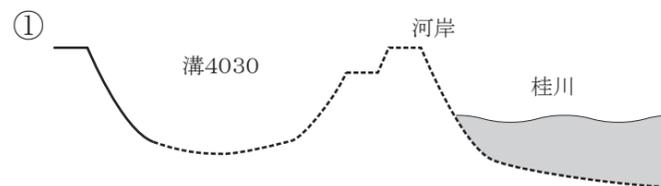
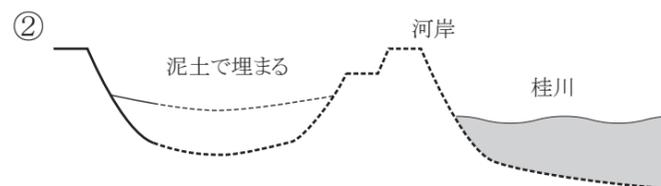


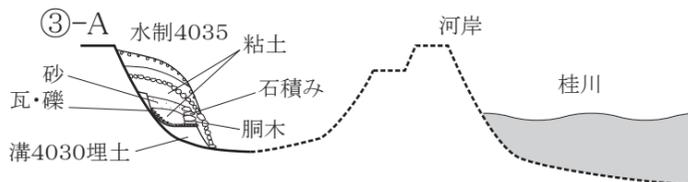
図7 水制4035、護岸4031イメージ図



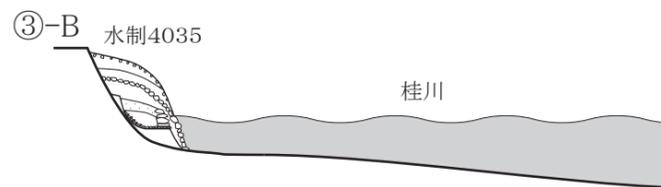
溝4030が掘削される。
(江戸時代前期以前・17世紀中頃以前)



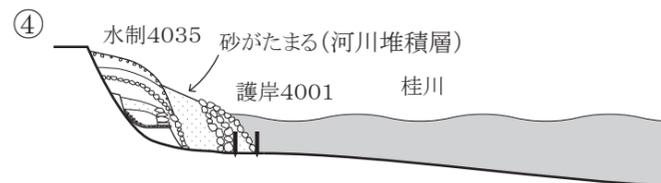
溝4030に泥土が堆積する。
(江戸時代前期・17世紀中頃)



水制4035は、溝4030の堆積土を掘り
込み、核をなす石積みの上に桐木を据
え、礫・粘土・砂を交互に積み上げ構築
する。
(江戸時代前期・17世紀中頃)



水制4035を構築後、西側河岸を移動する。
(江戸時代前期・17世紀中頃)



砂が堆積し、護岸4001が構築される。
(江戸時代後期・18世紀後半)

図8 溝4030、水制4035、護岸4001変遷模式図



写真1 3区全景(北東から)



写真5 4区全景(北東から)



写真2 3区護岸3473(南東から)



写真3 3区護岸3200断割状況(北東から)



写真6 4区溝4030(北から)



写真7 4区水制4035(南東から)



写真4 3区水制3410構築材の竹蛇籠検出状況(西から)



写真8 4区水制4035の構築材に転用された船材(北東から)



写真9 4区護岸4031(北東から)